

今号の担当は、外来: 柏原真由、ICU: 大石拓巳です。
今回は、高齢者の食事による窒息について紹介します。

『窒息』は、呼吸が阻害されることで、脳障害など不可逆的な傷害を残したり、心停止を招きうる緊急性が高い状態です。

厚生労働省の「人口動態統計」によると、令和4年の「気道閉塞を生じた食物の誤えん」による死亡者数は4,696人です。このうち4,297人が高齢者であり、全体の9割以上と非常に高い割合を占めています。

当院でも、毎年食物による窒息・誤嚥の事故が発生しています。

窒息のリスク要因

認知症

咀嚼不全

義歯を外している

ADL低下

食物の溜め込み

サルコペニア
(筋力低下)

向精神薬・
抗精神病薬など
多量の薬服用

口腔乾燥

嚥下障害

食事の速さ

嚥下評価をクリアしていても、様々な窒息のリスクがあります

※のどを通りやすい「おかゆ」「流動食」「ゼリー」も例外ではありません！

口腔ケア・義歯ケア・適切なポジショニング等
リスク要因を除外するための看護ケアを実践していきましょう

もし、窒息を疑ったら・・・

① 早期に認知し、患者さんから離れず応援要請

② 軽度の場合、咳を促す

③ 重度であれば、異物除去のための緊急処置が必要
腹部突き上げ法(ハイムリック法)・背部叩打法・吸引

④ 意識がなくなった場合、CPR開始
人工呼吸の際に口腔内に異物が確認できれば除去



応急処置を知っておく事も大切ですが、
窒息のリスク要因を意識し、多職種で予防的にかかわることが
最も重要です★